

今年度 最終号です。1年間、園だよりをお読み頂きましたこと 職員一同 感謝申し上げます。さて、ほんとうに早いもので 2023年度も 残すところ 2週間足らずとなってしまいました。

さて 年長組の子ども達は今、卒園へのカウントダウンがなされていく中で巣立つ喜びよりも通い慣れた この場所を離れることへの現実味が 少しずつ迫ってきていることに、なんとなく不安や緊張があるようで、「抱っこして」「これやって」と急に甘えてきたり 委ねてきたり…ちょっとした言葉の端々や 心とした様子からも伝わってきますので、できるだけ応じています。すべてに守られ 周りの皆から愛されて のびのびと自由に過ごしてきたこの小さな保育園から、今度は、広くて大きくて…これまでとは全く異なる未知の世界へ 自分で泳いで飛び込んでゆく子ども達の心は きっと 期待や希望の反面、それ以上の複雑な想いで 渦巻いているのでしょうか。ここ最近では 早いお迎えの子ども達に声がかかった際、決まって「やだ！帰りたくない！」と口を一字にし 全身に力を籠めて座り直したり 腕組みをして首を横に振ったりなどといった“ボイコット(!?)”を始めるのですが、周りの仲間達も 決まって「そうだよね！」「わかる」「お迎えを遅くして！って 頼みに行けば？」など、すかさず 熱い援護で一致団結です。(笑) 1分でも1秒でも長く、大好きな保育園で、大好きな友達や先生達と 一緒にいたいのでしょうか。そんな子ども達の愛おしい姿は、私達にとっても 微笑ましく切なく胸にぐっときてしまいます。気が付けば卒園まで もう正味1週間足らずの ほんとうにわずかな時間となってしまいました。子ども達にとって楽しくて温かでキラキラの思い出を 心に残せるよう、1人1人へ祈りを込め 出会えた感謝と 分かち合うことができた喜びと幸せを共に 笑顔で歩んでいきたいと思えます。

今月2日(土)、卒園プログラムの一環として 昨年 一昨年と同様に 日本基督教団銚子教会へ 卒園記念礼拝をまもるため、年長組12名と全職員で大型バスに乗り 朝から出かけてきました 銚子教会の米澤講治牧師先生は 本法人共励福祉会の役員として 長年 支えてくださり、現在は 評議員の立場で運営に於いて、子ども達や保育園のために祈り 多くのお力添えを頂いています。新たな社会へ羽ばたいてゆく卒園児へ向けて、ひとりひとりの歩みの上に、神様の愛と希望を 祈って頂くため 3年前より素敵な教会へ伺い 記念礼拝の祝福メッセージをお願いしています。毎年の卒園式のプログラム表紙にも 優しく繊細なお花を描いてくださり、感謝でいっぱいです。2日当日には 先生ご夫妻と教会員の方々に笑顔でお迎え頂いて、子ども達は大はしゃぎでした。ノアの箱舟をモチーフにした礼拝堂の中へ入ると 子ども達の心が一気に静まり、目を輝かせて「わぁ！すごい…」「きれい！」と立ち尽くしたまま 高い天井を見上げたり、深呼吸をしたり 美しい鐘の音に耳を澄ませたりして初めて味わう教会の雰囲気それぞれに楽しんでいました。今年も 子ども達に分かりやすい表現で、希望に溢れ心温まる力強いお話をしてくださいました。人と人とが絆を結ぶため心優しく生き合うのに必要なのは まず互いを知り、名前を覚えること。この世の中のすべての人と知り合うことは困難だけれど、自分が生きる範囲の中で お隣り同士、名前を呼び 手を取り合えば、人の輪はつながり 広がっていくことを 実際に皆で体験しました。“平和をつくる”とは ということ=身近な社会、ささやかな日々から生み出すものなのだと 先生のメッセージを通して改めて思われました。子ども達の心にも お話が染み入ったようで 今でもこの時のことを思い出しながら話しています。これからの日々 子ども達が 神様を信じ 心優しく、人を愛し、どうか 平和をつくり出す喜びを知ることができるよう…と祈ります。

「あなたがたは 互いに愛し合いなさい。 わたしがあなたがたを愛したように、

そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(ヨハネ 13:34)」 (石田 記)